

平成14年度事業報告

平成14年4月 1日から
平成15年3月31日まで

特定非営利活動法人 自然塾丹沢ドン会

1 事業の概況

地域はひとつの生態系である。人もその重要な構成員であり、林に入っては木を切り、薪や炭にし、草を刈り、落ち葉集めに精だした。その頃の里山は四季折々、惚れ惚れとする美しさで人を魅了し、生物に好まれていた。

燃料が薪、炭から石油、電気に代わり里山から人の足は遠のいた。すると今まで顔を出せば人に刈り取られていた笹がのさばり始め、今では人の入るのを拒んでいる。

クヌギやコナラは高齢化し、太くなり萌芽更新をして生まれ変わる力もうせてしまった。放置すれば自然の摂理に従って生物相の薄い照葉樹林へと遷移を進めるのだろう。

あるじを亡くした田んぼはすでに荒野化していた。そこに棚田があったなど想像もできない状態で木が生え、ヨシ、ススキが根を張った。当然、そこを住まいにしていた生物も姿を消していた。

放置すれば鷹の舞う丹沢山麓の原風景は姿を消していたに違いない。

台風は、水路を抉り取ることで山林の持つ公益機能の低下を教えた。一見何の変哲もない里山、奥山が今病んでいる。人の足が遠のいたことが原因している。

自然保護を声高に叫ぶことは簡単だ。でも、その前に、足しげく通えば病も癒えるのかもしれない。汗を流し続けた1年だった。

2 庶務事項

(1) 助成

- ア 日本財団
里山保全にかかる雑木林整備のためのチェーンソー等の整備（はじめの一步）事業
- イ イオン財団
里山保全活動事業
- ウ 秦野市 里山ふれあい事業
- エ 秦野ジャスコ
「イオン幸せの黄色いレシートキャンペーン」 毎月11日に買い物をした黄色いレシートを社会貢献活動をしている登録済みのグループボックスに投函するとその総額の1%が助成されるもの。
- オ 富士ゼロックス 環境保護活動
- カ 秦野市商店街連合会 商店街活性化事業
- キ 心のボランティア 田中茂氏
- ク 丹沢の緑をはぐくむ森作り事業 登山道補修、緑化

(2) 届け出

- ア 事業報告 決算報告 平成14年5月30日 神奈川県知事

3 事業内容

(1) 里山保全事業

ア. 草刈機2台、チェーンソー2台を購入、機能的になったことによりクヌギ、コナラ林のブロック全伐を実施した。昔ながらの里山管理手法の導入により里山の萌芽更新の促進を図った。

(ア) 自然塾雑木林教室

日時 平成14年11月から15年3月

場所 秦野市名古木地区

下草刈り、間伐、しいたけホダ木づくり、木工教室を実施、山麓の自然の大切さ森林の果たす役割を参加者に知ってもらった。

(イ) 自然塾そば作り教室

日時 平成14年8月から12月

場所 秦野市名古木

(ウ) 自然塾麦づくり

日時 通年

場所 秦野市名古木

(工) 自然塾稲作り教室

日時 通年

場所 秦野市名古木

荒野状態の棚田の復元に挑戦。草刈、焼畑、田越し、水路整備作業をし、その結果6枚の棚田が復活、田植えができる状態になった。

(2) 環境学習事業

ア 鷹の渡りを見る会

日時 平成14年4月6日

場所 秦野市東田原

日時 平成14年10月5日

場所 秦野市東田原

イ 蛍観察会

日時 平成14年6月29日

場所 秦野市名古木

ウ 草津白根自然観察会

日時 平成14年9月23日・24日・25日

場所 草津温泉

里山管理手法を学ぶ

エ 地球博・高桑さんと里山を歩く

日時 4月23日 6月3日 7月2日 7月31日

会場 名古木里山

名古木に住む生物を観察、最後にシンポジウムで総括的な報告をしてもらう。

(3) 環境保全丹沢シンポジウム

日時 平成15年3月9日

場所 秦野市なでしこ会館

テーマ 棚田と里山の復権

パネリスト 高桑(地球博)長沢(愛川高校)室田(東海大)岡(ドン会)

進行 片桐(ドン会)

里山の放置が生物に影響を与えている。樹木は遷移を進め照葉樹林帯への移行をはじめた。アカカシ、アラカシが増え、クヌギ、コナ

ラは樹液を出さなくなった。樹液がなくなれば昆虫も来なくなる。針葉樹の二次林は最早危機的状況である。

(4) 収穫祭の開催

日時 平成14年12月8日

場所 秦野市菩提青少年野外センター

(5) 丹沢山地保全事業

登山道の補修、緑化

ミズヒ沢出合～後沢乗越

観音茶屋～雑事場の平 小草平 二俣～堀山の家

日時 通年

場所 丹沢山地

(6) 文化芸術事業

ア 陶芸教室

日時 平成14年10月26日

場所 旬市場窯

イ 丹沢山麓展の実施

日時 3月21日から 日

会場 秦野市本町四つ角周辺商店街

神奈川新聞社説に次のように事業が紹介された。

丹沢の自然をテーマにした市民手作りの美術展が、秦野市の中心商店街である本町四つ角地区の空き店舗など四カ所を活用して開かれ多くの市民でにぎわった。小学生の愛鳥委員会や自然観察クラブが一年間かけてまとめた共同研究が、工夫したグラフや楽しいイラスト、写真入りで紹介してあった。雑木林の手入れ作業で伐採したクヌギの木を使ったフクロウの工芸品やシイタケのほだ木も並べられ、小さな会場には丹沢の山ろくを渡る緑の風がさわやかに吹き抜けているようだった。別の会場には、市内で創作活動をするプロ彫刻家の作品も寄せられた。アマチュア作家の絵画などとともにさりげなく展示され、打ち解けて親しみやすい気軽な美術館の雰囲気が漂っていた。里山の復元保全活動を続ける NPO 法人（特定非営利活動法人）自然塾丹沢ドン会が主催して、昨年からはじめた。休耕田や荒れ放題の雑木林を手入れする中で、自然に生まれてくる創作意欲を作品に表現して発表しようという狙い。二回目の今年は「商店街を美術館に」「雑木林と人とを結ぶ」をテーマに、市商店会連合会に呼び掛け新たに主催に加わってもらった。初回はメンバー中心の

作品展だったが、今回は市民二百五十人がざっと四百点の作品を応募し、規模が一気に膨らんだ。十日間の開催中、買い物途中の主婦や家族連れが鑑賞に訪れた。手作り作品を通して丹沢の自然の大切さを訴えたのはもちろん、空き店舗活用のアイデアが商店街の活性化にも一役買った。商店経営者の高齢化や後継者難などから、市内の商店街では店を閉めてシャッターを下ろしたままの店舗が増えている。くしの歯が欠けたような状態では、商店街自体の活気がそがれると市では数年前から空き店舗活用対策に取り組んできた。新年度も約三千七百万円の予算を計上し、店舗の改装費や家賃の一部補助などを行う。空き店舗を借りて新しく商売を始めようとする人たちを側面から支援しようというものだ。市内には現在、五十五軒の空き店舗があるが、市の活用対策を受けて昨年、二軒がシャッターを開けた。市の対策と歩調を合わせ、市民グループが商店街を窓口にさまざまなイベントを展開すれば、通りにはかつてのにぎわいがよみがえってくるだろう。NPO 団体が行った今回の美術展は、市民がイニシアチブを取って町おこしをしようとする試みで注目される。本町地区には今でも古い商家が点在し、独特の町並み景観を形成している。美術展と合わせ、古い町並みを保存しながら活性化につなげようというシンポジウムも開かれた。町づくりへの市民の手による一つひとつの運動の積み重ねに声援を送りたい。

(7) 広報事業

- ア ホームページのリニューアル ドメイン取得
- イ 会報「ドンタン」の発行
- ウ パブリシティ活動

(8) 活動の記録

平成14年	4月	6日	鷹のわたり観察会	東田原
		23日	高桑さんと里山を歩く	名古屋
	5月	11日	(特)自然塾丹沢ドン会総会	なでしこ会館
		12日	田起こし(東海大に合流)	
		25日	棚田復元作業	
	6月	3日	高桑さんと里山を歩く	
		9日	田植え	
		9日	棚田復元作業	
		16日	麦刈り	

- 2 2 日 麦の調整 そばの石とり
- 2 9 日 蛍の観察会
- 7 月 1 日 高桑さんと里山を歩く
- 8 月 4 日 棚田の復元作業
- 2 4 日 そばの種まきと棚田の復元
- 9 月 7 日 そばの土寄せ（間引き）
- 10 月 13 日 稲刈り
- 10 月 26 日 陶芸教室
- 10 月 27 日 もみすり
- 11 月 2 日 里山保全 棚田の復元
- 4 日 名古木自治会祭りに参加
- 9 日 そばの刈り取り 麦蒔き準備
- 16 日 そばの脱粒
- 17 日 東海大収穫祭に参加
- 16～17 日 秦野市農業祭りに参加
- 23 日 間伐 そばの調整
- 30 日 そば蒔と里山散策
- 12 月 8 日 収穫祭
- 平成 15 年 1 月 18 日 チェンソー教室
- 2 月 1 日 里山管理
- 15 日 里山アート教室
- 3 月 9 日 丹沢シンポジウム
- 21～30 日 丹沢山麓展

(定例活動日のほかにも雑木林の管理、棚田の復元作業を実施した)